

SMAAS

Sumitomo Mitsui
Auto Service
Company, Limited

SMASメンテナンスニュース

Volume

10

Maintenance News

Autumn 2021



SMASメンテナンスサービスは、
現地密着のサポート体制により、
お客様に安全と安心を提供します！



Sumitomo  
Mitsui   
Auto    
Service   

そうだ、これからのクルマのこと、相談しよう。

まだ大雨に気を付けたい日はありますが、
秋の足音も聞こえはじめるこの季節。
快適なカーライフを楽しみましょう！

クルマ豆知識

毎号タイムリーな話題、季節ネタなどを交えながら
クルマに関するためになる豆知識について
取り上げていきます！



Driving Tips _ 14

高速道路の知って得する情報

高速道路には、知って得する、逆に言えば知らないと損をすることがいろいろあります。それらについて個別に見ていきましょう。

ETC2.0

ETC2.0は料金決済機能のみのETCを進化させたものです。ETC2.0とITSスポット対応カーナビを使用することで、多様なサービスを受けることができます。

受けられるサービスは以下の通りです。

①ダイナミックルートガイダンス

都道府県をまたいだ広範囲の渋滞データをリアルタイムで受信できます。

②安全運転支援

落下物等、道路上の障害物に関する情報を適切なタイミングで知らせてくれます。そのほか事故多発地点などでは注意喚起し、渋滞末尾情報も提供してくれるので知らない場所でも安心して走ることができます。

③料金割引、道の駅利用時の一時退出が可能に

割引サービスのほか、これまでは不可能だった高速道路から道の駅などへの一時退出ができるようになりますので、経済的なメリットもあります。

④ITSスポットの活用

高速道路のサービスエリアに設置されているITSスポットでは、渋滞情報、気象情報、観光情報などの情報を取得することができます。



高速道路での表示に気を配る

高速道路の『i』マーク

SA・PAに情報ターミナルがあることを表示しています。渋滞情報や通行止め情

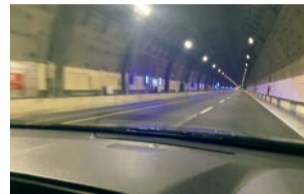
報などを確認することができます。

渋滞表示板の赤い三角マーク

これは渋滞が今後さらに延びる可能性があることを示しています。

路肩の青色LEDの流れ

速度低下は渋滞の大きな原因となります。下って上るところをサグと呼びますが、青色のLEDを進行方向に点滅させることで、ドライバーに速度低下について意識させ、速度回復への注意喚起を行っています。



アジアハイウェイ標識

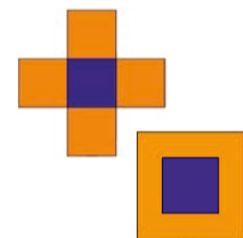
AH1という表示があります。AHは、アジアハイウェイと呼ばれるアジア32カ国を横断するように結ぶ国際道路網で、8本のルートが存在します。

AH1はアジアハイウェイ1号線で、起点の東京・日本橋から高速道路やフェリーを經由し、トルコのカプクレまでの約2万kmを結ぶルートです。



四角と十の表示

四角が始点、十が終点で、『投雪禁止区域指定標示板』と呼ばれます。高速道路の下に道路が走っていたり、民家が隣接されているなどで、投雪すると危険な場所であることを示しています。一般車両ではなく、除雪作業車に向けた標識です。



Driving Tips _ 15

カーエアコンの上手な使い方

現在はオートエアコンが主流になってきており、使い勝手、性能とも向上していますが、みなさんはエアコンを上手に使っていますか？ エアコンには外気を取り入れるモードである外気導入と車内の空気を循環させる内気循環の2つがあります。そこでそれぞれのメリット&デメリットを見ていきます。

外気導入

外気導入は車内の温度を外気に近づけることができるので、ガラス類の曇りを取ることができます。そして、真夏など炎天下で高温になった室内温度を下げるのにも有効です。

そのほか、車内で飲食した時のにおいやペットのにおい、今では少数派ですがたばこの嫌なにおいを外に放出することが可能です。



内気循環

最も効果を発揮するのが外気の状態がよくない場合です。渋滞が激しく外気が排ガス臭い、花粉が充満しているような山道などを走る時、海沿いの潮のにおいがきつい、牧草地などの家畜臭が激しいなどの場合は外気導入にしていると、そのにおいが車内に充満しますが、内気循環にしておけば大丈夫です。



そのほか、車内の温度を急激に下げたい場合も内気循環がおすすめです。また、外気導入でガラスの曇りが取れると説明しましたが、外気温と湿度が高い場合などは、内気循環にしたほうが曇りが取れやすいケースもあります。



では、通常時はどちらで走るのがいいか気になるところですが、クルマの取扱説明書を見ると、通常時は外気導入で走り、必要時に内気循環に切り替えることをメーカーでは推奨しています。

真夏の車内を快適にするためには、クルマに乗り込んで窓を全開→外気導入で走行→温度が比較的下がってきたら内気循環に切り替え→温度が落ち着いたら外気導入に戻す、こうすれば効率よく温度を下げることができます。

外気導入で走行を続けると車内が排ガスなどで満たされるのでは、と危惧している人もいるかと思いますが、最近のクルマのエアコンフィルターの性能はかなり優秀で、室内への汚染物質、花粉などの侵入は大きく抑えられていますのでそれほど神経質になることもないと思われます。

それよりも外気導入と内気循環でそれぞれ継続的にドライブした場合、外気導入に比べて内気循環の方が車内のCO₂濃度は最大6倍程度まで高くなるというJAFの実験結果も出ています。室内のCO₂濃度の上昇は、ドライバー、同乗者の体調にも悪影響を与えますので、注意したいところです。

台風・豪雨時における運転の注意点について

晩夏から秋の季節は、台風や長雨などの天気心配される時期でもあります。近年は豪雨による災害もとても目立っています。右記のポイントに注意していただき、大雨や台風時におけるクルマの運転方法および、備えのためのメンテナンスのご確認をお願いいたします。

下記のような状況では、特にご注意ください

激しい台風や豪雨の日は不要不急の外出は控えて、クルマを運転しないことが第一です。必要に迫られて運転する場合や突然の大雨に遭遇した場合は、以下の点にお気をつけください。

1. 高架下や立体交差点のアンダーパスなど、冠水の恐れのある低い場所を走らない
2. 冠水している道路は避ける
3. 落石や土砂崩れなどの可能性があるため、海岸沿いや崖の近くを走らない
4. 急な大雨に見舞われたら、安全な場所にクルマを停めて、雨が弱まるのを待つ

雨の日に安全に走るためには、クルマのコンディションを整えておくことも大切です。

◆タイヤの状態が悪いとブレーキのききが悪くなったり、スリップやハイドロブレーキング現象が起きやすくなります。タイヤは溝や空気圧チェックをはじめ、傷やひび割れがないかも確認しておきましょう。

◆雨の日に安全に走るには視界の確保も大切です。ワイパーの動きやワイパーの拭き取り具合などもチェックしましょう。また、ウィンドウやサイドミラーの油膜を落とすことも視界確保につながります。

◆万が一、冠水した道路などでクルマが立ち往生した時のために「緊急脱出用のハンマー」を車載しておくとう安心です。

[SMAS流クルマ研究]

クルマのことを知ると、クルマがもっと楽しくなる！
毎号、カーライフを充実させる
情報満載でお届けします！

カーライフを充実
させる情報満載！

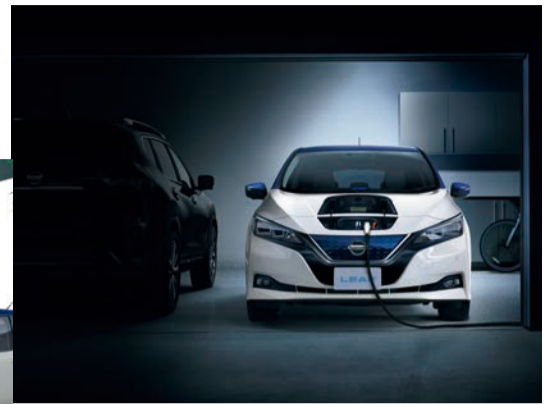
Volume _ 11

EVやPHV・PHEV、HVの給電機能に注目

自然災害など非常時の停電などの備えにもなることで注目されているのが給電機能を持つクルマです。特に電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHV・PHEV)は優れた給電性能を持っています。

クルマを電源として使えるから便利

最近では家庭用のAC100V電源を取り出せるクルマが増えていて、EVやPHV・PHEV、ハイブリッド車(HV)などの多くは1500Wの出力に対応し、炊飯器や電子レンジなども動かせます。また、クルマに蓄えた電気を家で使える「VtoH (Vehicle to Homeの略)」に対応した車種もあります。



電気自動車

大容量のバッテリーに蓄えた電気を家庭で使えるVtoHに対応している車種があるのがEVです。日産リーフは40kWhと62kWhの2種類のバッテリー容量のモデルがあり、一般家庭で使う電力を2～3日分供給できる計算です。ただしリーフは車体本体にAC100Vのコンセントは装備されていません。



ホンダ初の量産EVであるホンダeはバッテリー容量が35.5kWhと小さめですがVtoHに対応しています。

プラグインハイブリッド車

三菱のアウトランダーPHEVとエクリプスクロスPHEVはバッテリーの電気を使い切っても、エンジンで電源供給を続けられるのが特徴です。AC100Vのコンセントが装備され、1500Wの出力に対応します。



VtoHにも対応しています。トヨタのプリウスPHVやRAV4 PHVは付属のコネクターを使えば充電口から1500Wを外部に給電できます。プリウスPHVはVtoHにも対応しています。
※PHVおよびPHEVについては各自動車メーカーによる呼び方の違いで、どちらも充電機能を持つハイブリッド車です

ハイブリッド車



HVにもメーカーオプションなどによってAC100V電源を使用できる車種が増えています。トヨタのHVは1500Wの外部給電機能に対応したアクセサリコンセントの選択が幅広い車種で可能になっています。

Volume _ 12

今注目の自動運転技術

今注目を集めている自動運転ですが、0～5段階に分けて定義されています。その定義は以下のとおりです。

段階	主体	走行領域
0 運転自動化なし	人	……
1 運転支援	人	限定的
2 部分運転自動化	人	限定的
3 条件付き運転自動化	クルマ	限定的
4 高度運転自動化	クルマ	限定的
5 完全運転自動化	クルマ	限定なし



では具体的にそのレベルについて見ていきましょう。

自動運転レベル0

まったく自動運転機能を持たないクルマです。

自動運転レベル1

衝突被害軽減ブレーキ、前走車との車間距離を維持しながら追従走行する機能を持ったアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)、クルマが車線からはみ出さないようにコントロールする車線逸脱防止装置(LKAS)が搭載されているクルマになります。現在はこの自動運転レベル1のクルマは幅広く存在しています。

自動運転レベル2

特定条件下での自動運転機能ということで、高速道路上でのステアリングアシスト

などがこれに該当します。日本車では、日産セレナのプロパイロットが第1号として登場し、トヨタMIRAI、日産スカイラインのプロパイロット2.0、スバルレヴォーグのアイサイトXではハンズオフ機能が付加されています。



自動運転レベル3

ホンダが世界初の自動運転レベル3の認証を受け、『ホンダ センシング エリート』を搭載したレジェンドを2021年3月に発売(100台リース販売)しました。レベル2までとレベル3からの最大の違いは、主体が人からクルマになっていることです。

自動運転レベル3では、アクセル、ブレーキ操作をしなくてもいい『フットフリー』、ステアリングから手を放してもいい『ハンズフリー』、視線を解放する(安全確認が不要)『アイズフリー』といった3つのフリーが可能になります。

ただし、特定条件下における自動運転機能ということで、限定的になります。レジェンドでは、トラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能、TJP)が作動可能なのは30～50km/hまでの速度域のみとなっています。



SMASの活動

【CSR活動】

SMASは経営理念や行動指針で「クルマ社会の発展と地球環境の向上に貢献」「思いやりと感謝の精神を持ち、社会や地球環境の向上に貢献」を掲げ、本業を通じたクルマに関する課題解決のほかにも、いろいろな活動をサポートしています。ここではその活動についてクローズアップします。

屋内型農園「SMASファームみやざき」を開園しました

◆SMASでは、2021年4月12日より、宮崎県宮崎市内に屋内型農園「SMASファームみやざき」を開園しました。

◆この農園は、株式会社JSH様が所有する屋内型農園の一角を当社の農園としてお借りし、当該地域に住む障がいを持った方々にこちらで働いていただくことを目的としたものになります。

◆「自動車リース会社が、なぜ農園を？」と思われるかもしれませんが、地方創生への取り組みを行うことおよび、障がいを持った方がイキイキと働ける環境をご提供することで、企業の社会的責任を果たすことができるのではないかと考え、開園に至りました。

◆SMASファームみやざきでは、現在4名の方が農園でハーブを栽培しております。屋内型農園のため、天候に左右されず安定した収穫が期待されます。収穫したハーブについては、ファーム内で加工のうえハーブティーとしてSMAS社員への配布を予定しております。



会社概要

住友三井オートサービス株式会社 [本社]

◆東京本社/
東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティビル

◆大阪本社/
大阪府大阪市中央区北浜4-5-33 住友ビル

[拠点数]

◆本社・支店・エリアオフィス 38拠点
◆カスタマーサポートセンター(CSC) 12拠点

[車両保有管理台数]

101.5万台(グループ合計、2021年3月末時点)

[車両関連マネジメント総数]

192万契約(グループ合計、2021年3月末時点)

[グループ企業]

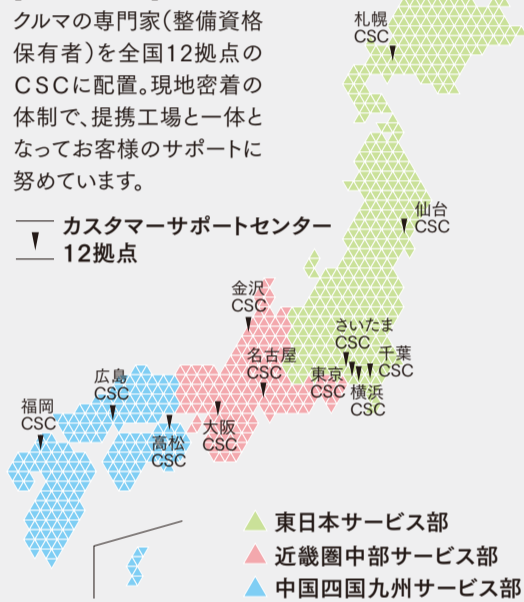
- ◆株式会社エース・オートリース
- ◆マツダオートリース株式会社
- ◆株式会社セディナオートリース
- ◆SMAサポート株式会社
- ◆スペース・ムーブ株式会社
- ◆i-SMAS少額短期保険株式会社
- ◆MOBILOTS株式会社
- ◆Sumitomo Mitsui Auto Leasing & Service(Thailand)Co., Ltd.
- ◆Summit Auto Lease Australia Pty Ltd.
- ◆SMAS Auto Leasing India Private Limited

SMASフリート株式会社および株式会社ニコピットは2020年4月に住友三井オートサービスおよびSMAサポートとそれぞれ統合いたしました。

[CSC配置図]

クルマの専門家(整備資格保有者)を全国12拠点のCSCに配置。現地密着の体制で、提携工場と一体となってお客様のサポートに努めています。

— カスタマーサポートセンター
12拠点



- ▲ 東日本サービス部
- ▲ 近畿圏中部サービス部
- ▲ 中国四国九州サービス部

SMAC提携メンテナンス工場訪問

Volume

8 モービルオート株式会社

〒221-0035 神奈川県横浜市神奈川区星野町3

[代表者]代表取締役社長 新倉芳郎

[TEL]045-441-8105

[HP] <https://www.mobilauto.jp>



今回は神奈川県のもービルオート株式会社を紹介し、インタビューには新倉芳郎代表取締役社長と齋藤健太常務が答えてくださいました。

— 特長、アピールポイントは?

モービルオート/弊社はもともと石油製品の販売をしていた会社で、横浜市で車検整備などの工場のほかにガソリンスタンドを展開しており、レンタカー事業も行っています。そのほか神奈川県内では相模原市の営業所で整備と板金をを行っています。また東京都大田区にはガソリンスタンドがあり、こちら



は認証工場にもなっています。

リースの場合は、近隣のみならずみらい地区や横浜駅西口地区にお客様が多いのですが、オフィスビルの立体駐車場が多い土地柄、現地へ出向いての点検などが難しいため、ガソリンスタンドへご来店いただいて点検や整備を行っているのも特長だと思います。

— 現在抱えている問題はありますか?

モービルオート/コロナ禍によってテレワークをする企業が多くなったことで、会社の在り方が変わってきています。これによって私たちの会社がある横浜の商業地域も、企業の出入りが増えたと聞いていますので、今後はお客様のニーズが変わってくるかもしれません。コロナ後はどのようなのか? そしてどうすべきか? を考えています。

— 新技術への対応はどうしていますか?

モービルオート/先進運転支援システムなどへの対応については、2カ所の指定工場にて特定整備認証資格を取得しています。

さらに、2カ所のガソリンスタンドの認証工場も特定整備認証資格を取得する予定で、こちらは2024年に導入される予定の、OBDを活用して車両の電子機能を検査することを義務付けた「OBD車検」に対応したいと考えています。

— 最後にひと言をお願いします。

モービルオート/近い将来、EV・FCVなどいろいろな新しいクルマが普及してきますので、これらに対応していきながら、これからもこの業界で活躍していけたらと思っています。

全国CSC巡り

Volume

8 横浜CSC

〒220-6216 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-5

クイーンズタワーC棟

[TEL]045-682-3222

[管轄エリア]神奈川県、東京都町田市

コロナ禍でVol.8、Vol.9と2回にわたりインタビューを中止していましたが、今回オンラインにて執り行いました。今回は横浜CSCの山口大路センター長に話を聞きました。山口センター長は、第1回の大阪CSCに続き2回目の登場となります。

— 横浜CSCの特長、アピールポイントは?

山口/横浜CSCの管轄エリアは、横浜駅周辺地域に代表される都市型と、相模原市、小田原市などの郊外型がミックスされています。そのため短距離移動だけではなく、長距離移動も多いという土地柄となっています。それに加えて提携

工場が約1000社と多いため、業務は多岐にわたります。「横浜CSCを経験すれば、全国どこでもやっていると」言われている理由であり、このことが横浜CSCの最大の特長でありアピールポイントでもあります。

— コロナ禍でどのような苦労がありますか?

山口/私どもは提携工場へ頻りに顔出しすることで、人間関係を構築していきませんが、現在、肝心の訪問ができません。出ていくことで感染してもいけませんし、相手を感染させてもいけないという立場にあります。訪問活動はどうしてもという時以外は自粛している状態です。非常にもどかしい思いです。提携工場様の場合、業務の性質上オンラインなどで打ち合わせるのも難しい状況というの厳しいところですよ。

— 最後にひと言をお願いします。

山口/クルマの信頼性が高まったことで、壊れないというイメージをお持ちのお客様が増えています。その結果、メンテナンスを受けず『時すでに遅し』という状態になるケースは少なくありません。お客様にクルマは故障することもある、と認識していただき、安心・安全にお使いいただくために予防整備の重要性をアピールしたいと思います。



モビリティのお役立ち情報「Mobili+」&「Mobility Magazine」

「Mobili+」(モビリティ)では、電気自動車などのエコカーやテレマティクス、社用車の管理などモビリティに関するお役立ち情報を提供しています。

メルマガ「Mobility Magazine」では、人気のWebセミナーなど旬な情報をいち早くお届け!メルマガは「Mobili+」からご登録いただけます。

メルマガ登録はこちら

すべての記事

モビリティ最新情報

車両・ノウハウ

コスト削減・安全運転対策

セミナー・質問・回答

お問い合わせ

Mobility Magazine

住友三井オートサービス

いつも大変お世話になっております。住友三井オートサービスです。

すべての記事

- 車両管理者向けWebセミナーのご案内

燃料電池自動車 (FCV) とは? 究極のエコカーと呼ばれる、その理由。

クルマの異常はSOS!
TEL: 2021-03-26

Mobili+(モビリティ)はこちら

